

2024年3月期第2四半期 決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～
<https://www.transgenic.co.jp>

2023年11月10日
株式会社トランスジェニック

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

I. 2024年3月期第2四半期連結決算概要	・・・ 2
II. 創薬支援事業の状況	・・・ 6
III. 投資・コンサルティング事業の状況	・・・ 11
IV. 2024年3月期連結業績予想	・・・ 15



I . 2024年3月期第2四半期連結決算概要

2024年3月期第2四半期連結決算：ハイライト

当第2四半期連結業績は投資・コンサルティング事業が好調に推移し、連結売上高は前年同期比で増収となるも、下期偏重型の創薬支援事業の上期減益の結果、連結営業損益については前年同期比で減益となった。

売上高

6,377百万円

対2023年3月期第2四半期
834百万円増 (+ 15.1%)

創薬支援事業 **286百万円減 (△ 22.6%)**
投資・コンサルティング事業 1,122百万円増 (+ 26.3%)
本社・連結調整 1百万円増

営業利益

88百万円

対2023年3月期第2四半期
46百万円減 (△ 34.4%)

創薬支援事業 **180百万円減 (-%)**
投資・コンサルティング事業 131百万円増 (+ 142.3%)
本社・連結調整 2百万円増

経常利益

94百万円

対2023年3月期第2四半期
109百万円減 (△ 53.6%)

親会社株主に帰属する 当期純利益

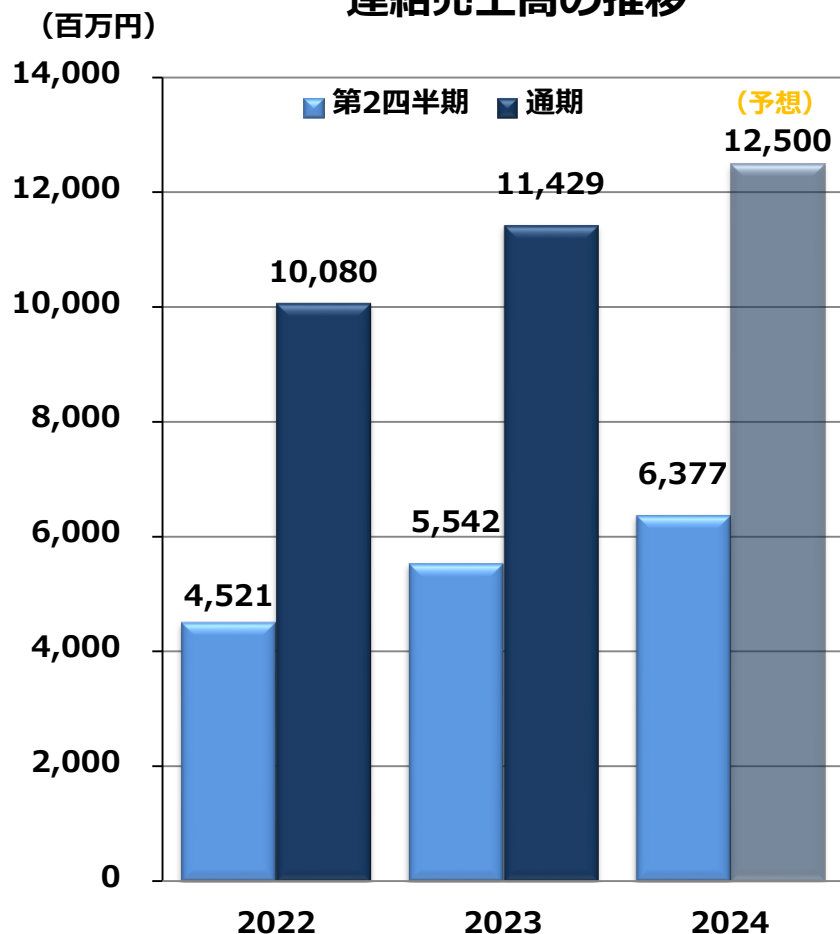
48百万円

対2023年3月期第2四半期
6百万円減 (△ 11.7%)

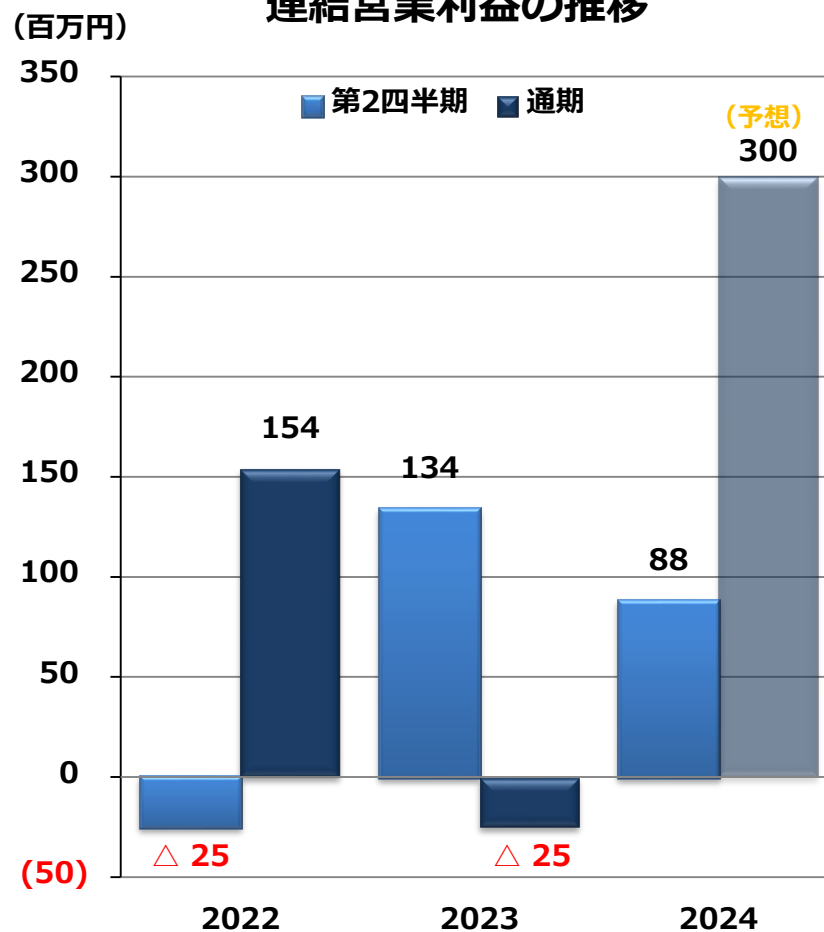
2024年3月期第2四半期連結決算：業績推移

連結売上高は、投資・コンサルティング事業の好調を受けて増収を維持、連結営業損益は創薬支援事業の下期偏重により減益となった。

連結売上高の推移



連結営業利益の推移



※2022年の連結売上高及び連結営業利益については、2022年1月に譲渡した診断解析事業を除外しております。

2024年3月期第2四半期連結決算：連結キャッシュ・フロー

営業C/Fは、投資・コンサルティング事業の伸長で運転資金が拡大し、支出超過。
投資C/Fは、M&Aや大型設備投資がなく、支出減少。

単位：百万円		2023年3月期 (第2四半期)	2024年3月期 (第2四半期)	増減要因
営業 キャッシュ・ フロー	税引前利益	156	94	
	たな卸資産の増加額	△533	△492	主に投資・コンサルティング事業の伸長に伴う増加
	法人税等の支払・還付（純額）	△281	178	前期中間納付の還付
	その他	△37	△146	
		△695	△365	
投資 キャッシュ・ フロー	固定資産の取得	△152	△111	主に創薬支援事業における設備関連投資
	子会社株式の取得	△692	—	当期はM&A投資実績なし
	その他	243	△17	前期は主として保険積立金の解約収入
		△600	△129	
フリーキャッシュ・フロー		△1,296	△494	
財務 キャッシュ・ フロー	有利子負債の増減額	163	36	多額の投資なく運転資金中心に調達
	配当金の支払額	△98	△82	前期は特別配当、当期は記念配当を実施
		64	△46	
現金及び現金同等物の増減額		△1,223	△538	
現金及び現金同等物期首残高		4,618	3,459	
現金及び現金同等物期末残高		3,394	2,920	



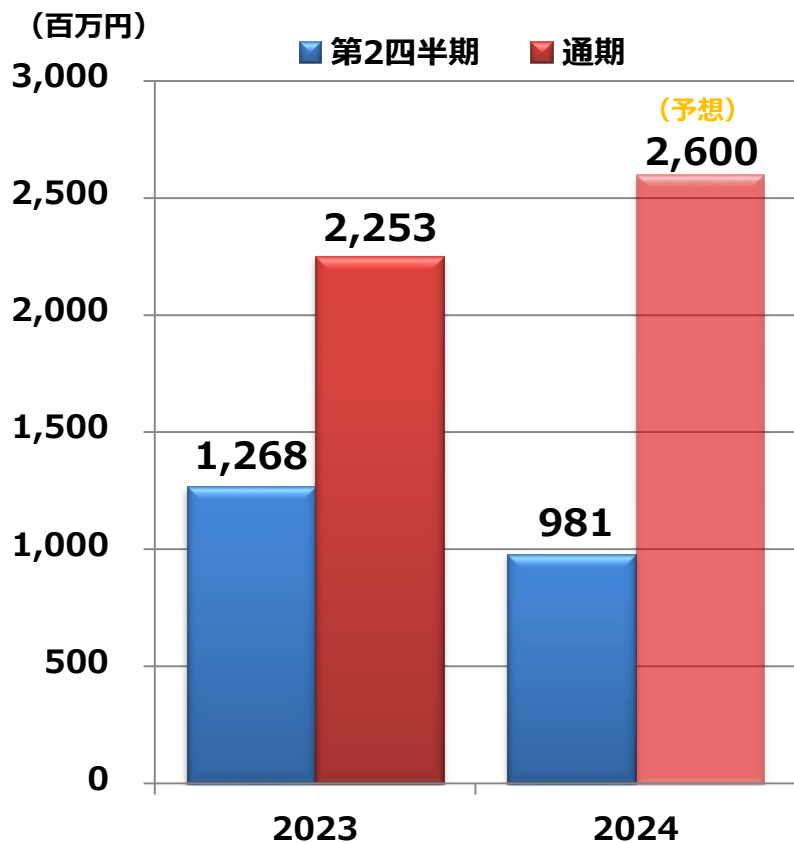
Ⅱ. 創薬支援事業の状況

創薬支援事業：業績概要

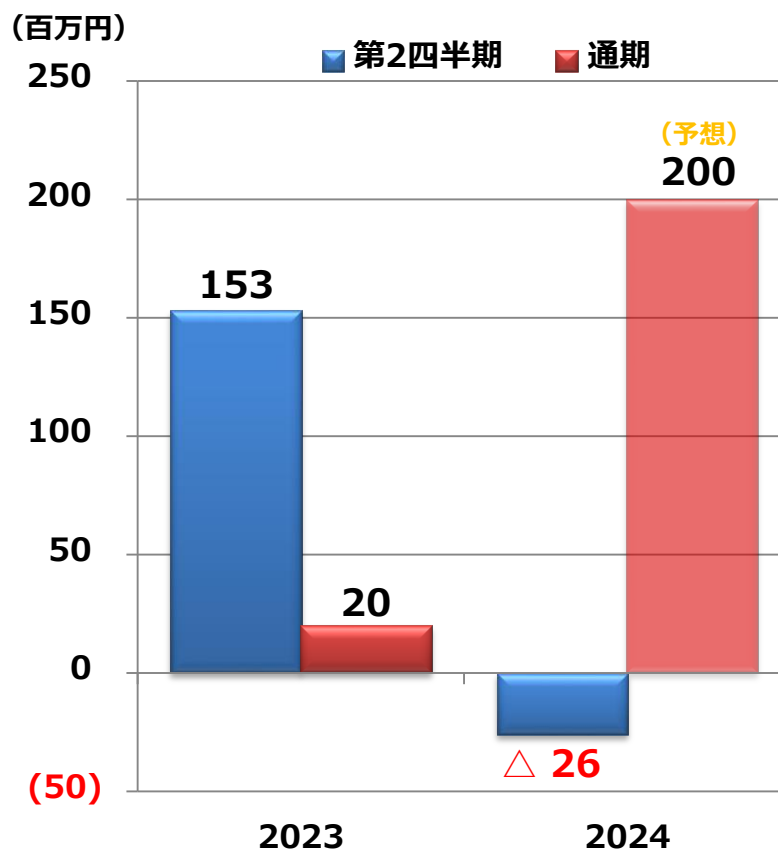
事業構造強化を目的とした、(株)新薬リサーチセンター中央研究所の非臨床試験受託事業の(株)安評センターへの集約過程にあったこと、及び(株)安評センター売上の下期偏重を受け、当第2四半期は減収減益。

通期売上高、営業利益については、受注残及び足元の状況から予想を据え置き。

売上高



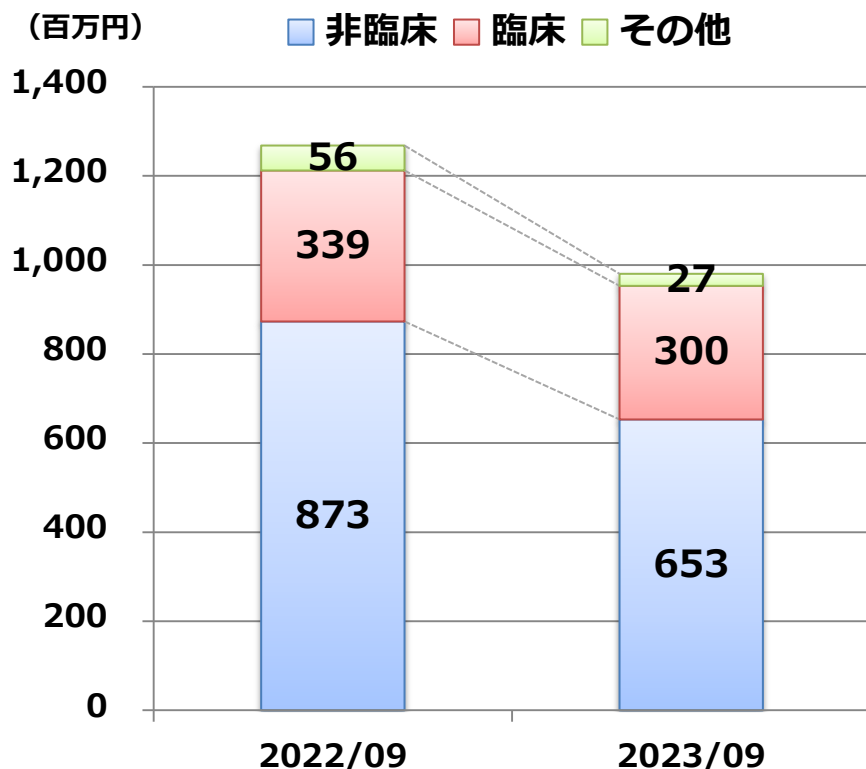
営業利益



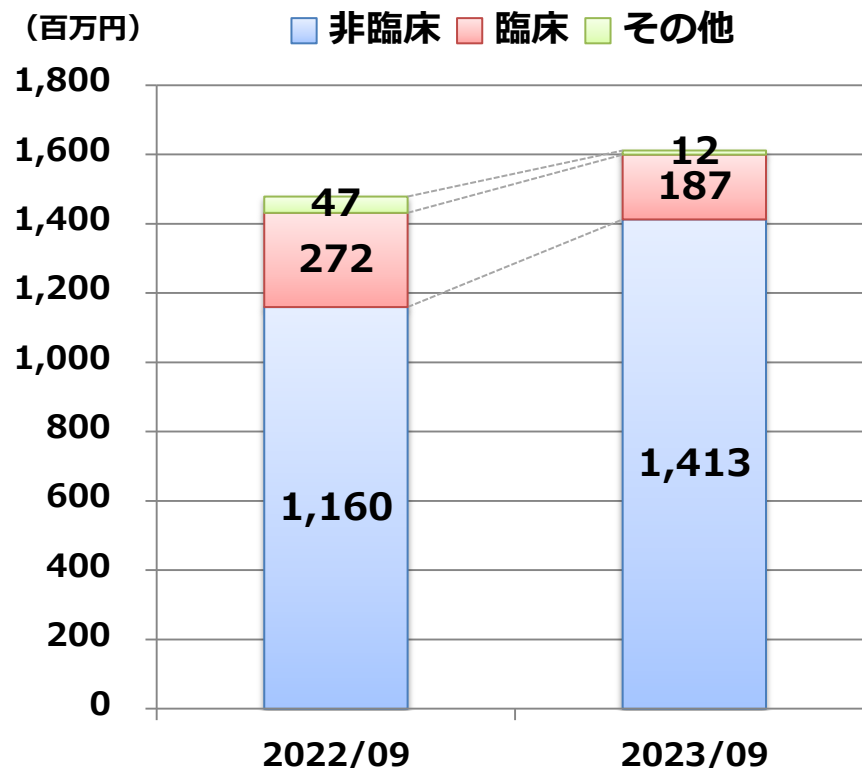
創薬支援事業：業績概要

- **非臨床試験**：非臨床試験受託事業の(株)安評センターへの集約過程で(株)新薬リサーチセンターの売上高は減少。一方、海外案件比率の増加に伴い試験規模がより大型化・長期化し、(株)安評センター繰越受注残は増加。
- **臨床試験**：受注獲得に注力したが、大型案件が少なく繰越受注残は減少。

売上高



繰越受注残



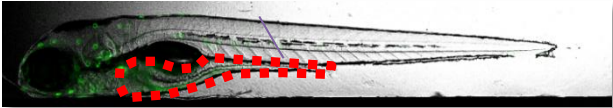
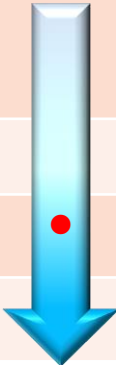

(株)安評センター：新規受託サービス「中期発がん性試験」の導入

発がん性関連領域に関する高付加価値な技術・サービスの導入と研究員の採用を積極的に行い、高収益体質への転換を実現する。

概要	優位性	試験プロトコル例
<p>これまで、国内で「中期発がん性試験」を独占的に展開・供給していた企業において、同試験の立上げ及び確立に貢献してきた研究員2名を受け入れて、早期導入及び開始に向けて準備中</p> <p>※2024年度中に開始予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 短期間に高精度で化学物質の発がん性を予測 ➤ 長期がん原性試験の代替法として推奨 ➤ 研究開発費の大幅削減が可能 ➤ 農薬、医薬品等の開発メーカーにおける発がん性評価での高い需要 	<p>中期皮膚発がん性試験 (標準プロトコル)</p> <p>動物：CrI:CD1 (ICR)、雌性マウス、8週齢 ↓：7,12-Dimethylbenz[a]anthracene (DMBA), 100 µg/100 µL, 単回経皮投与 ■：被験物質 対照群, 低用量, 中用量, 高用量 背部皮膚に経皮投与, 7回/週 ■：陽性対照物質 12-O-tetradecanoylphorbol-13-acetate (TPA) 4 µg/200 µL, 背部皮膚に経皮投与, 2回/週</p> <p>中期肝発がん性試験 (標準プロトコル)</p> <p>動物：F344 DuCrI/CrIj系雄性ラット, 6週齢 ↓：N-nitrosodiethylamine (DEN), 200 mg/kg BW, 腹腔内投与 ▼：2/3肝部分切除術 (PH) ■：被験物質 対照群, 低用量, 中用量, 高用量 強制経口投与, 7回/週 ■：陽性対照物質 Sodium Phenobarbital (S.PB), 500 ppm 混餌投与</p>

(株)安評センター：(株)アンジェスとのTGZF（トランスジェニックゼブラフィッシュ）共同研究開発

TGZFモデル（F2世代）は完成。今後、薬剤スクリーニングとして活用可能かの検証を経て、創薬スクリーニングサービスを展開予定。

研究開発内容・目的	開発進捗状況		
<p>BSRC BioSafety Research Center</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)安評センターは炎症性刺激によるGFP発現及び薬剤に対する反応性の確認が可能なTGZFモデルを開発 <p>刺激剤を卵黄嚢注射後24時間のGFP発現誘導</p>  <p>AnGes</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)アンジェスは炎症に関連する種々のタイプの薬剤を用いてTGZFモデルの有用性を検証 	No	開発工程	進捗
	(1)	GFPLレポータープラスミド及びTransposase発現ベクターの作製	
	(2)	TGZFモデルの作製（F2）	
	(3)	TGZFモデルの検証	
	(4)	各種薬剤への反応性の確認	
	<p style="text-align: center;">  TGZFを用いた 薬剤スクリーニングサービスの開始 </p>		



Ⅲ. 投資・コンサルティング事業の状況

投資・コンサルティング事業：事業概要及び特徴

事業概要・特徴

M & Aによる新規事業の推進と幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援及び投資を実行。事業承継案件を対象に、「ニッチ・黒字安定・自走経営」を投資要件として、当上半期時点で主要6社に投資を実行し事業運営。

Trans Genic Inc. 純粋持株会社

TGBS 中間持株会社
TG Business Service Inc.

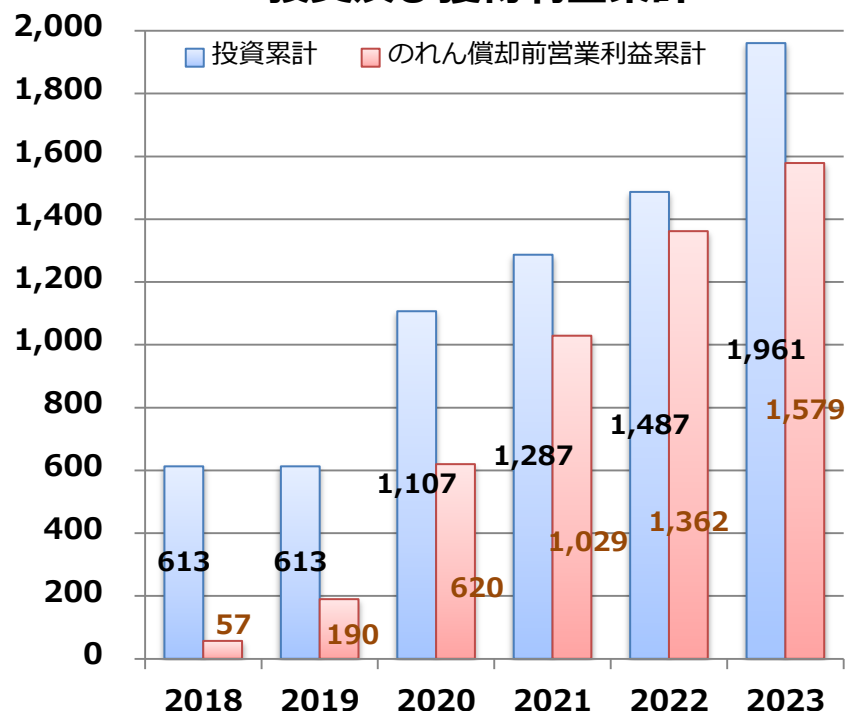
EC事業

商社事業他

EC事業	家電製品全般や、主にヨーロッパから輸入した食器、雑貨等をECサイトで販売を行う2社で構成
商社事業他	最先端の硝子専門加工機器及び関連する資材・消耗品の輸入販売から設置までを取り扱う専門商社や、海外純正品のトナーの輸入卸・加工・販売及びリサイクルトナー用部材の卸販売を行う商社等、主に4社で構成

(百万円)

投資及び獲得利益累計



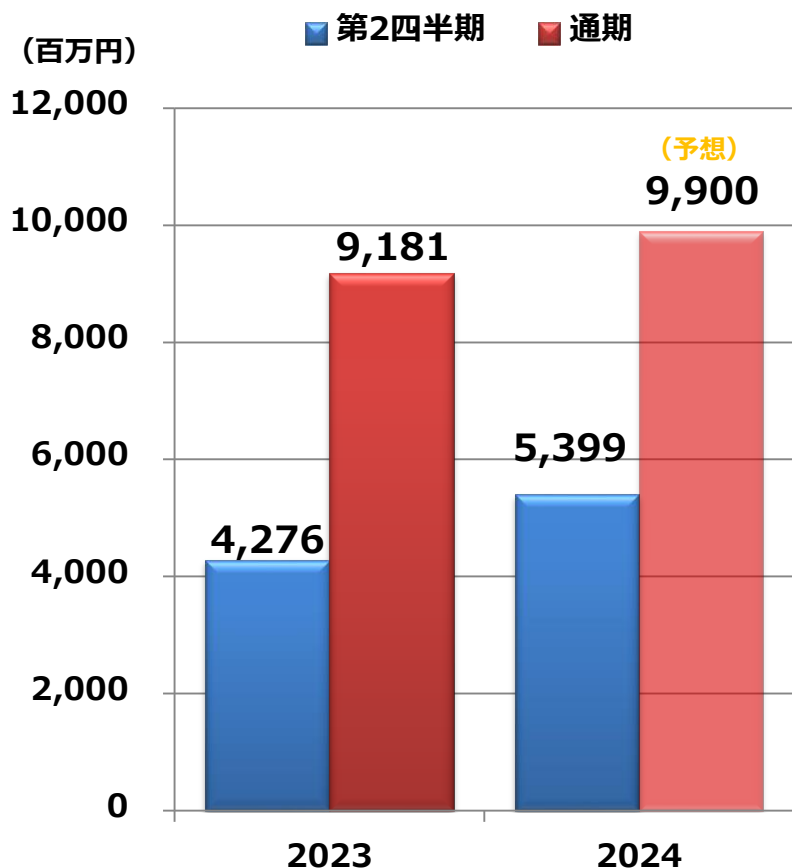
M&A市場が拡大している事業承継案件を対象に、ここまで、「ニッチ・黒字安定・自走経営」を投資条件として投資を実行。今後も、投資回収状況、グループの財務状況を見て投資を継続し事業拡大を図る方針。

投資・コンサルティング事業：業績概要

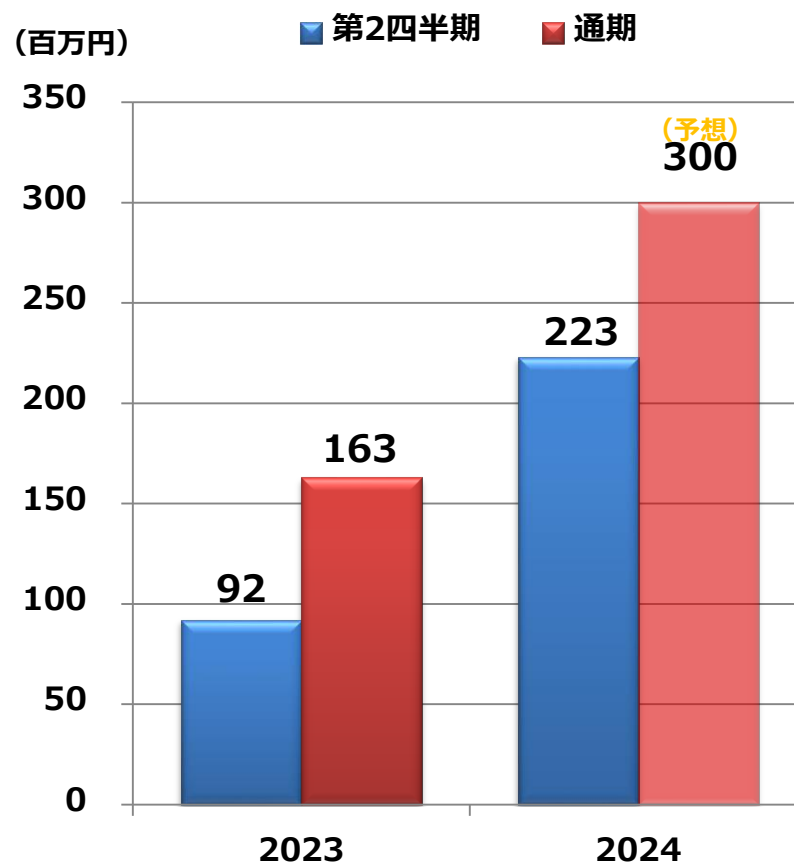
(株)TGM（商社事業）における大型受注案件の完了により売上高が伸長したほか、その他の子会社においても価格転嫁及び営業力強化を進めた結果、増収増益。

通期売上高、営業利益については伸長を期待するも、保守的に予想を据え置き。

売上高



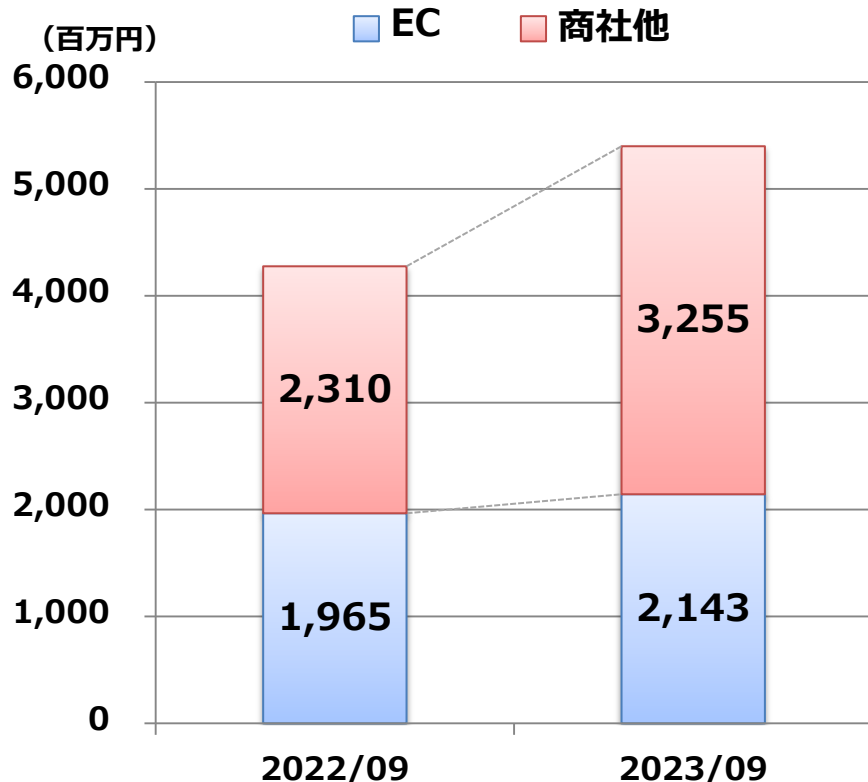
営業利益



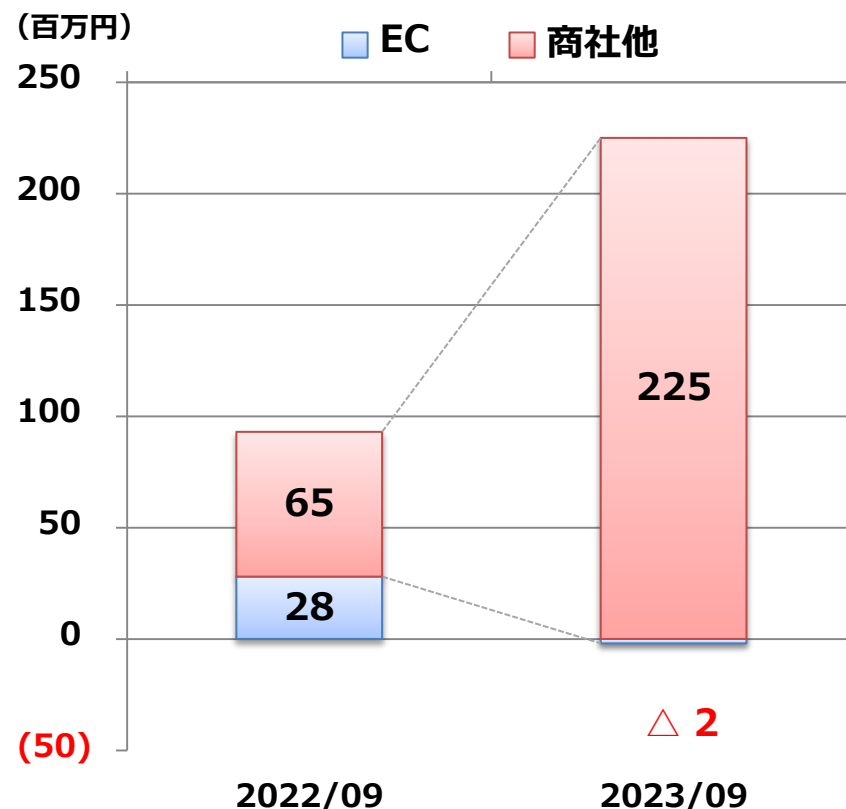
投資・コンサルティング事業：業績概要

- EC : 一時期の消費不況から回復傾向にあり増収となるも、円安による輸入価額上昇が輸入食器・雑貨販売の利益を圧迫し減益。
- 商社他 : (株)TGMにおける大型受注案件の完了や、その他の子会社における価格転嫁・営業力強化により増収増益。

売上高



営業利益





IV. 2024年3月期連結業績予想

2024年3月期 連結業績予想

下半期偏重型の創薬支援事業は期首予想通りの着地を想定、投資・コンサルティング事業は更なる伸長を期待するも保守的に期首予想を据え置き。

単位：百万円	2024年3月期 (第2四半期)	2024年3月期 (通期予想)	進捗率 (%)
売上高	6,377	12,500	51.0
創薬支援事業	981	2,600	37.7
投資・コンサルティング事業	5,399	9,900	54.5
本社・連結調整	△3	-	-
営業費用	6,288	12,200	51.5
創薬支援事業	1,008	2,400	42.0
投資・コンサルティング事業	5,175	9,600	53.9
本社・連結調整	104	200	52.0
営業利益	88	300	29.3
創薬支援事業	△26	200	-
投資・コンサルティング事業	223	300	74.3
本社・連結調整	△107	△200	-



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://www.transgenic.co.jp>